



動物園の地域貢献 : 王子動物園の取り組みを事例に

和田, 隼人

矢嶋, 巖

(Citation)

兵庫地理, 60:75-87

(Issue Date)

2015

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003894>



動物園の地域貢献

—王子動物園の取り組みを事例に—

和田 隼人・矢嶋 巖

1. 序論

日本には、2014年12月時点で、日本動物園水族館協会（以下、JAZA）に加盟しているものだけを数えても152の動物園と水族館が国内に存在する

（JAZA ホームページより）。それらの施設は、来園者に対して、普段は観察することの難しい世界中の生き物に接する機会を与えてくれる。そして、来園者に癒し、迫力、発見をもたらし、生命の神秘を感じさせる。

動物園は、水族館、植物園とともに博物館の一つに数えられる。博物館法第2条により、博物館は、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」とされている。

これに基づくと、動物園とは豊富な種の動物を集めて展示し、来園者に対して生物や環境に対する教養を深めさせ、生態調査、レクリエーションの役割を担う場、と言える。なお、JAZAにおいても、動物園と水族館の主な目的として、レクリエーション・種の保存・環境教育・調査研究の4点を挙げている（JAZA ホームページより）。

日本において動物園という施設は、1882年に日本初の動物園である恩賜上野動物園が誕生して以来、徐々に各地に開設され、長らく市民の憩いの場として利用されてきた。2005年には旭山市立旭山動物園（以下、旭山動物園）が「行動展示」を取り入れてブームとなり、全国の動物園が行動展示の手法を取り入れて活性化したとされる。

しかし、近年では動物園全体の来園者数は減少傾

向にあり、2012年度の来園者数は、ピークだった1991年度の6,565万人の約6割の、約4千万人にまで減少した。公立動物園の多くは、子供の入園料が無料、大人でも500～600円程度であり、手軽に利用できるが、一方で税金の補助がないと運営していけないのが実情である。動物園は維持費が高額であることから、地方自治体所管の動物園では主に入園料収入で運営されており、ほとんどの場合が赤字運営であるとされる。それに関しては、動物園担当者が、税金を投じて運営を続ける理由について、市民の理解を得られないとの声もある（朝日新聞 GLOBE 2014年7月20日記事による）。これは、公立動物園担当者自身も、動物園の役割にどのような社会的意義があるのかを理解できていないことを意味しているのではないだろうか。

日本における動物園についての研究は、その存在意義に関するものが多いと言える。若生（1982）は動物園の誕生から昭和初期までの変遷を歴史的アプローチで解明し、その存在が娯楽要素の強い施設であったことを明らかにした。菊田（2008）は動物園が博物館に位置付けられる社会教育施設でありながら多くの人々に動物園が博物館として認知されていないとし、今後の教育プログラム開発の重要性を説いた。瀧端（2014）は、博物館法に「動物園」と「水族館」の2つの単語の記載がないことから、動物園・水族館の法的根拠を考えるために、博物館法制定時までの議論を公営財団法人の日本博物館協会が発行する『博物館研究』掲載記事及び、『社会教育法制研究資料XIV』収録資料を中心に検討した。そして、文部省・JAZA・日本博物館協会の3者の考え方のずれを指摘し、その背景には日本の動物園・植物園・水族館が教育研究機関とみなされず、市民への厚生施設とみなされてきた問題があるとした。

以上の研究は動物園の存在そのものを疑問視し、また博物館でありながら教育要素が薄いことを指摘し、いずれも今後の動物園がどうあるべきかを論じている。一方で、地方自治体が維持管理する動物園がどのような役割を果たし、貢献しているかを把握した研究は少ない。動物園の社会に対する貢献を市民に対して示さなければ、動物園の存続は危ぶまれる。

このような現状を踏まえ、本稿では研究対象を動物園とし、動物園がどれほど地域に貢献しているのか、どのような課題があるのかを把握することを目的とする。事例として、神戸市立王子動物園（以下、王子動物園）とその周辺の保育所（以後は保育園と表記する）の取り組みと職員の声を交えながら論じていく。調査期間は2014年4月～12月である。

王子動物園を事例に挙げた理由は、2000年から現在まで毎年100万人以上の入園者数を記録する日本を代表する動物園の一つであるということ、筆者がボランティア活動をしていることから核心に迫った情報を集めやすいことの2点である。

地域貢献の内容については「レクリエーション（憩い）」「教育」の2点に焦点を当てて論じていく。レクリエーションは、動物園への最も主要な来園目的であり、日本で動物園が誕生して以来、現在に至るまで持ち続けている主要な役割である。また、教育の役割は近年になって重要視されているとされる。本稿で事例とする王子動物園が、これら2点をスローガンの中に盛り込んでいることも踏まえ、王子動物園が行なう地域貢献を考える際に注目することにした。それに当たって、王子動物園周辺に位置する保育園が動物園をどのように利用し、王子動物園の利用についてどのような考えを持つのかを主要な論点とすることとした。その理由は、保育園は、動物園を散歩や遠足といった目的で高頻度に利用しており、関係性が深いため、聞き取り調査を通して本研究にとって有意義な意見・情報を得られると考えたためである。また、利用者側の意見を本研究に取り入れることができるということも理由の一つである。なお、そもそも保育所は児童福祉法に規定される保

育のための施設であり、学校教育法に規定される教育施設である学校には位置づけられないが、保育には養護と教育の面があるとされることが、二つの保育園が王子動物園を最も利用している教育的施設であることから、本研究において対象とした。

研究方法としては、日本の動物園の歴史と現状を把握するための文献研究のほか、王子動物園に対しては主に取り組みについて、周辺の2つの保育園に対しては、王子動物園の利用目的や保育における教育的内容に関して聞き取り調査を行った¹⁾。また、王子動物園におけるフィールドワークについては、筆者が同園において月に1回の頻度で行っているボランティア活動も参与観察の1つとして数えると、2014年12月までに計20回行った。

2. 日本の動物園の変遷

(1) 役割の移り変わり

現状として、日本の動物園は教育、種の保存の役割の重要性が高まってきている。しかし、日本の動物園が誕生した頃からそうした特性が強かったわけではない。若生（1982）は、日本の動物園の歴史のうち、江戸時代中期から1965年頃までを表1のように時代区分をしている。

表1 日本の動物園の時代区分

時代区分	年代	特性
見世物園地	江戸時代 中、後期	娯楽施設
山下町博物館	1873～ 1882	殖産興業
上野動物園の開設	1882～ 1909	国家主義イデオロギーの浸透
京都、大阪、名古屋に動物園開設	1890（後） ～1920 （前）	近代都市の象徴、娯楽施設として定着
電鉄が遊園地型動物園を開設	1926～ 1942	娯楽色を強める、学 者から批判
戦時体制の時代	1943～ 1947	動物が殺処分、存続 の危機

各地の地方自治体に動物園開設	1948～ 1955	23 園の動物園が開設、児童への情操教育
多摩動物公園の昆虫館	1955～	65 年開設の昆虫館は自然理解が目的

出典 若生 (1982)

近年では、動物園における環境教育や種の保存の役割の重要性が高まっている。教育においては、動物園・水族館では 1980 年代以降、さまざまな取り組みを模索してきた。それはパネルの工夫やイベントの改善などに始まり、一定の人数を対象にした教育プログラムの実施にまで発展してきた。JAZA

(2001) によれば、教育プログラムを全く保有していない動物園・水族館は、2001 年の時点でほとんどないと言っていいという状態である。

2000 年には教育事業推進委員会を中心に文部科学省からの助成を受け、JAZA は全国の動物園の教育事業についての実態調査を行っている。調査から得られた課題は以下のとおりである。

①教育専門スタッフの必要性

教育専門スタッフのいる動物園・水族館はまだ少なく、プログラム作りを飼育スタッフの才能と技量と気力に頼っている。これは将来的にも既存の水準を保てる確証がないことを意味する。動物園・水族館の活動としての発展を確保し、かつ定着させるためには、専門スタッフの導入を検討する必要がある。

②専門家を取り入れたプログラム研修の検討

2000 年時点で行われているプログラムには、検討の余地があるものが多い。例えば、遊びの要素が欠けていたり、来園者の反応をフィードバックして次に生かすという取り組みが足りない。外部から専門家を入れ、プログラムを充実させるための研修・研究会を充実させる必要がある。

③類似プログラム別マニュアル作成の検討

全国の動物園・水族館が共有できるマニュアルを作成することにより、各園がそれをもとにして独自の試みを取り入れることができれば、そのプログラ

ムを発展させることができる。マニュアルを共有化することで、動物園・水族館での教育の全国的な底上げと充実を図ることができる。

④学校との連携システムの確立

2002 年度から実施される「総合的な学習の時間」に対応した学校対応の教育プログラムは、現行のもので十分に対応が可能である。しかし、学校サイドとの連携が円滑にいかないことが実施へのネックとなっている。学校側との情報交換などの連携を確立することが急務である。

この調査結果を受けて、翌 2001 年に JAZA は、動物園・水族館での新しい 13 の教育プログラムを開発・提案している。その内容は主に、来園者参加型、理科教育・総合学習への利用応用に関するもの、園館長のタレント化、などの特性を持つものである。

これらのプログラムはあくまで動物園・水族館の側から発信して行うものである。動物園・水族館に教育専門のスタッフを配置することも、学校との連携をスムーズにし、今後の教育改革を進めるうえで必要になるとされる。

以上から、日本の動物園は見せ物小屋時代から歴史をたどると、長年にわたり娯楽施設としての役割を持ち続け、1980 年代になって教育や繁殖の役割が加わり、2000 年代にそれらの役割がより強調されるようになってきたと言える。

(2) 展示と動物確保の課題

動物園は「動物を見せ物」にする場からの変化を求められている。日本の動物園の起こりは、殖産興業の一環としての見世物的色合いが強かった。しかし、近年になって改革が進められている。その主な内容は、先進動物園のように教育と種の保存の役割を強化することである。また、動物の展示環境においては、動物福祉の考えに基づき、身体への配慮や生息環境の再現に工夫をしたものに改善させようとする動きがある。

また、展示動物の確保も課題の一つである。動物たちの高齢化と減少は動物園にとって深刻な問題の一つである。JAZA が 2011 年に主な動物の年齢や

寿命などをもとに、新たな対策を打たない場合に2010年から30年後にどの程度にまで減るかを予測したところ、アフリカゾウやラッコ、ニシローランドゴリラが3分の1から4分の1程にまで減少するとの結果が出た(朝日新聞 GLOBE 2014年7月20日記事による)。

動物園が動物を入手する方法には、購入、繁殖、借り受けなどの方法がある。動物を購入するには多額の費用が必要となり、その額も増加の一途をたどっており、財政難の地方自治体では手を出しづらい。繁殖では、近親交配を避けるために動物園間で個体を交換するのが通常だが、人気動物の場合、送り出す側の動物園で来園者数が減り、入園料収入が減少することが懸念される。借り受けに関しては、海外からの場合、飼育環境に対する条件が厳しく、審査の結果断られるというケースもあるとのことである(朝日新聞 GLOBE 2014年7月20日記事による)。

動物繁殖の先進国であるアメリカ合衆国にはアメリカ動物園水族館協会(以下、AZA)が中心となって進める繁殖プログラムがある。AZAに加盟する動物園は、繁殖計画に基づく動物移動などの指示に従う義務がある。これに反した場合、別の動物の繁殖を要望しても、AZAに融通をしてもらうことができない。JAZAにも、それを模した繁殖プログラムは存在するが、AZAほどの強制力はなく、計画が作られたとしても実行に移されないケースが多い。

NHKで2014年6月4日に放送された「クローズアップ現代」の番組内でJAZAの前会長である山本茂行氏が言うには、動物園を運営する地方自治体と国民に、種の保存の役割についての理解が進むことが必要であるという。地方自治体は動物園の展示動物を市の重要備品として扱っており、その価値基準が障壁となって繁殖が進まない現状があるとのことである。山本氏が問題視しているのは、日本において動物園の必要性についての議論が不十分であるという点である。そして、自治体と国民全体が種の保存という役割を理解し、協賛できるような説明が求められるという。すなわち、公立動物園による貢献内容を広く浸透させる必要があると言えよう。

3. 王子動物園の取り組みから見る地域貢献

(1) 王子動物園の概観

①王子動物園の歴史

王子動物園は、神戸市灘区の市街地に1951年3月に開園した、交通至便な都市型総合動物園である(図1)。翌1952年に文部省から博物館相当施設に認定された。世界中の人気動物を間近で見られることをコンセプトとし、動物の飼育点数は約140種800点である(『平成25年度王子動物園年報』による)。



図1 王子動物園とその周辺地図

出典：国土地理院 25000分の1地形図「神戸首都」(2003年更新)に加筆

王子動物園開園当初の動物は神戸区有諏訪山動物園(以下、諏訪山動物園)から移動されたものである。王子動物園の前身と言える諏訪山動物園は、1928年に現・神戸市中央区に建てられた諏訪山遊園地に併設される形で開園した。王子動物園開園50周年記念誌『諏訪子と歩んだ50年資料編』によると、1935年にブエノスアイレス動物園よりピューマとカラカラを受贈されるなど、この時代から海外の動物園との交流がみられる。1943年、第二次世界大戦の激化により、軍部から動物殺処分命令が下され、クマやライオンなど12種24頭の動物が処分された。1945年には度重なる空襲に遭いながらも、獣

舎や動物は被害を免れ、終戦を迎えた。

1952年には王子動物園の展示動物購入費を捻出するため、動物宝くじが売り出された。当時は、簡単に展示動物が購入できる財政状況ではなかったことが推測される。1965年には自然動物園としての構想が浮上し、東京から初代上野動物園園長である古賀忠道氏を招き、現地調査が行われた。Ⅱ章1節で述べたように、この時代に単なる娯楽施設から動物園が抜け出そうとする動きが王子動物園にもあったことがわかるが、その詳細は不明である。

②王子動物園とジャイアントパンダの関係

王子動物園はジャイアントパンダを飼育していることでも知られているが、中国からジャイアントパンダを借り受けるまでには以下のような経緯があった。1981年に神戸ポートピア博覧会が開催され、ジャイアントパンダを天津市から借り受け6か月間展示された。その飼育管理を、王子動物園と天津動物園の合作チームが担当した。1985年には、グリーンエキスポでキンシコウを天津市から借り受け、その飼育管理を再び王子動物園と天津動物園の合作チームが担当した。以上の経緯を踏まえ、1998年に当時の権藤園長が中国へ赴いて交渉し、翌年にはジャイアントパンダの日中共同飼育繁殖研究の協議書に調印し、2000年からジャイアントパンダの「コウコウ（興興）」と「タンタン（旦旦）」が飼育されることになった。それ以降ジャイアントパンダは王子動物園の重要なシンボルとなり、来園者数を支える存在であるとされる。

③入園者数の推移

王子動物園によるアンケート調査によると、2006年には神戸市外からの来園者が約3分の2を占め、2011年には約5分の4に高まっている。よって、王子動物園は神戸市民だけでなく、市外の地域をはじめとした多くの来園者から利用されていることがわかる。2013年度の入園者数ランキングでは全国第5位であった（表2）。

表2 2013年度における日本の動物園の入園者数上位10園

順位	施設名	入園者数
		(万人)
1	東京都恩賜上野動物園	349
2	名古屋市東山動植物園	223
3	旭川市旭山動物園	165
4	東武動物公園	127
5	神戸市立王子動物園	110
6	多摩動物公園	100
7	アドベンチャーワールド	99
8	札幌市円山動物園	96
9	福岡市動物園	95
10	よこはま動物園ズーラシア	92

出典 総合ランキング.net「動物園入場者数ランキング 2013年度」による

また、人気動物の有無で来園者数には大きな変化が生じる。2000年にジャイアントパンダが王子動物園に来園した際には、前年比で約100万人の伸びがあり、約199万人の入園者数となった。しかし、2002年には来園前の1990年代前半と同数程度の約128万人まで落ち込んだ。しかし、ジャイアントパンダが王子動物園の1つのシンボルとして扱われ、世間一般からもそのように認識されるようになったことは確かであり、大きなセールスポイントである。近年では日本の動物園の入園者数が減少傾向にある中、ジャイアントパンダ来園以来、2013年に至るまで、王子動物園の入園者数は年間100万人以上を保ち続けている（図2）。

人気動物が揃っているということは王子動物園の一つの売りでもあり、キリン・ゴリラ・ホッキョクグマ・コアラ・ライオンといった一般的に動物園で見たいとされる動物は揃っている。特に、国内でジャイアントパンダを見ることのできる動物園は上野動物園、和歌山アドベンチャーワールド、王子動物園の3園のみであり希少性が高い。さらに言えば、コアラとジャイアントパンダを同時に見ることができるのは、日本では王子動物園のみである。

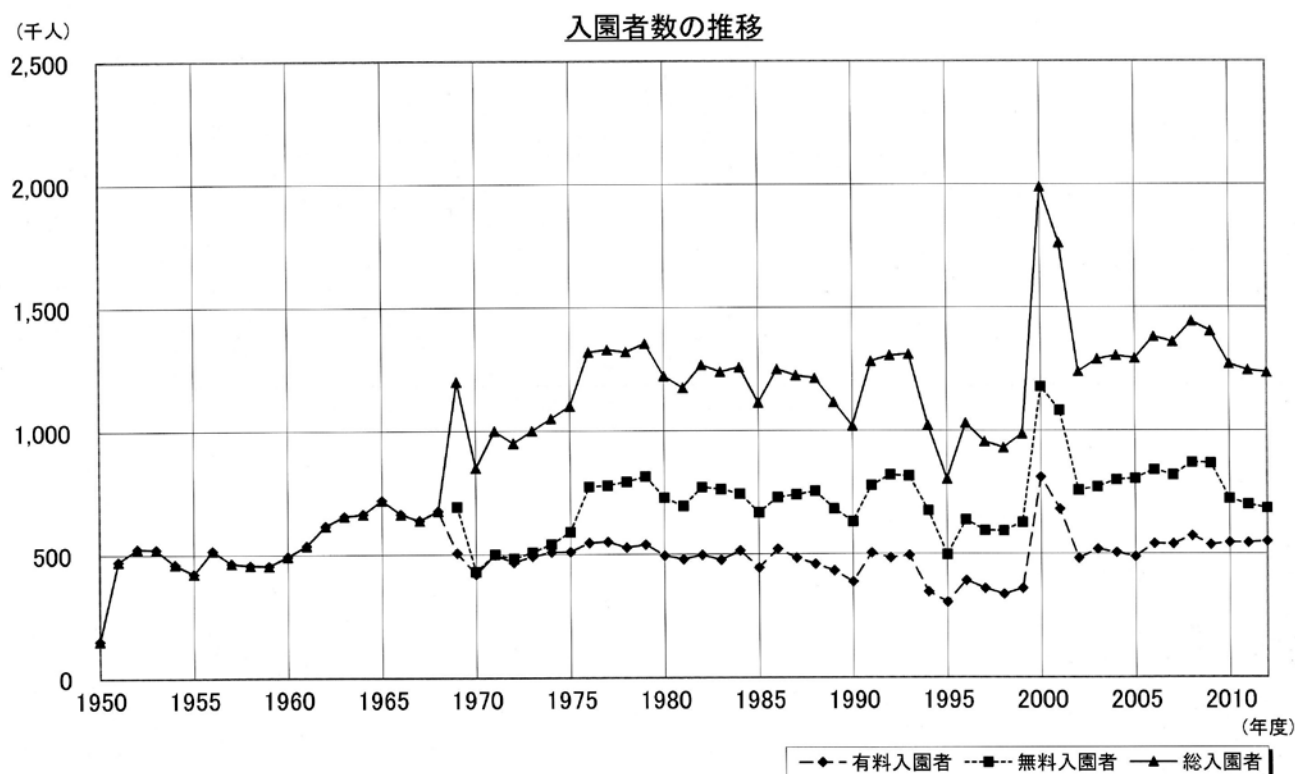


図2 王子動物園の入園者数の推移
出典 『平成24年度王子動物園年報』より転載

④経営方針

王子動物園は神戸市建設局が所管する社会教育施設である。2012年度の歳入は約5億円で、うち入園料は3億2千万円であった。歳出は約6億1千万円であり、経営としては赤字である。この数値には市の職員の人件費は含まれていない。なお、入園料収入を増やす対応をすれば黒字化は可能であるとされるが、公共の教育施設であり、中学生以下を無料にして訪れやすいようにしているため、黒字化は難しいという。

⑤繁殖の取り組みと実績

王子動物園は2014年5月時点で、JAZAの繁殖賞を22回受賞している。繁殖賞は、年に一度JAZAに加盟する動物園・水族館が飼育している生物について、日本で初めての繁殖に成功し、6か月以上生存した園館に対して授与される。

繁殖賞の情報は王子動物園の来園者向けホームページに詳細に記載されており、広報活動としての側面もあり、飼育員のモチベーション維持にもつなが

ると推測される。

⑥王子動物園の目指す動物園像

聞き取り調査において、王子動物園は神戸市民の来園者と遠方からの来園者とで、どちらをより強く意識しているかを尋ねたところ、市民のためという考え方が強いという回答があった。また、社会教育施設という位置づけがメインであると考えているとのことである。しかし、集客施設ということになれば、レクリエーションの要素も必要となる。王子動物園は、市民に愛される魅力ある動物園づくりを目指し、動物に優しい、人にやさしい、ワクワクする動物園となる事業を展開し、癒しの場にとどまらず、感動体験できる学習の場でありたいと考えているようである。そして、そのような趣旨の目標をスローガンとして掲げている。

⑦王子動物園職員から見た王子動物園の強み

王子動物園の職員に対して王子動物園の強みについて尋ねたところ、交通至便かつ緑豊かでコンパクトな都市型動物園であること、世界の人気動物を

間近で見られること、ジャイアントパンダとコアラが同時に見られることなどが挙げられた。

一般的な動物園では、コアラは遠くから眺めるように観察するものだが、王子動物園ではガラスを挟んで1メートルほどの距離で見ることができる。円形猛獣舎においても、ガラス1枚でトラやライオンと人間が隔たれており、窓の下の通気口からは猛獣の声・息が聞くことができる。

ジャイアントパンダとコアラは両方とも飼育難度が高い動物とされる。ジャイアントパンダは兵庫県北区^{おうご}淡河町の竹林から笹の提供を受けている。コアラの餌となるユーカリは、岡山、鹿児島、宇和島で契約栽培されている。ジャイアントパンダは1日20キロ、週150キロほどの餌を食べる。また鮮度も大切なので、週3回ほど配達される。この2種類のような、代替できない餌を食べる動物の飼育には苦労が伴うという。

(2) レクリエーション（憩い）による地域貢献

動物園でのレクリエーションとは、たとえば、家族や友人などとともに動物園に遊びに行くというようなシチュエーションのことをいう。2章(1)で述べたような初期の動物園像、つまり娯楽施設、憩いの場としての動物園である。

①集客施設としての特徴

集客施設としての王子動物園には次のような特徴がある。第一に季節・気候によって来園者数が左右される。『平成25年度王子動物園年報』によると、7・8月の来園者数は平均してひと月あたり約4万1千人、12・1・2月は平均してひと月あたり約5万人であり、来園者数が多い4月の約19万人に比べて3分の1以下に減少する。屋外施設であるため、暑い夏や、寒さの厳しい冬は来園者数が減少する傾向がみられるという。聞き取り調査によると、そういった入園者数が少ない月に合わせて様々なイベントを開催し、入園者数低下を抑える努力をしているとのことだが、改善には至っていない。

一方で、4月に入園者数が増える要因の一つとして、王子動物園ならではのイベントである夜桜通り抜けの開催があげられる。ソメイヨシノの名所で

もある王子動物園は、1951年より、花見の場としても利用されていた。しかし、酔った客が動物に物を投げつけるといったことがたびたびおこり、動物保護のため1969年には中止された。しかし、阪神・淡路大震災がきっかけとなり、通り抜けのみで飲食禁止という条件付きで復活した（聞き取り調査；『諏訪子と歩んだ50年資料編』による）。2013年度には、夜桜通り抜けだけで約3万6千人の入園者数を記録したとされる（『平成25年度王子動物園年報』による）。

②新たな発見、感動体験につながる来園者サービスの提供

近年の取り組みでは、以前にも不定期で開催されていた動物ガイドを定期的に行うこととなった。来園者により楽しんでもらうことを目的として、随時、解説パネルの内容を更新したり、体験型イベントを開催している。毎年夏に行われるトワイライトゾーン（夜間開放）は、動物たちの普段は見ることのできない姿を見せるのが目的であるとされる。

また、適時、生態展示やバリアフリー展示などの先進の施設・設備を取り入れている。たとえばカバ舎なら、生態展示に動物にとってのバリアフリーの要素をプラスしているという。王子動物園はかつて茶目子という日本で最高齢のカバを飼っていた。一時期高低差が大きいためプールに入れなくなったため、なだらかな床に改修したという。

また、設備の充実のため、秋田の水族館を参考にしてホッキョクグマ舎付近に製氷機を設置した。ゴリラ舎付近にはジェットミストを取り付けた。これは上野動物園を参考にしている。海外の動物園を参考にしたゾウ舎の日よけを設置したが、王子動物園独自の試みとして、それにシャワーを取り付けた（写真1）。他動物園を参考にしながら、独自のアレンジも適宜加えている。チンパンジー舎の櫓も、鉄柱ではなく木製であり、独自の試みである。王子動物園職員は、他施設の施設・設備に対する工夫を知るため、広報紙、ニュース、ホームページなどによる情報収集を常に心がけているという。



写真1 ゾウ舎のシャワー付き日よけ
2014年9月27日 和田撮影



写真2 アマチュア動物写真コンクール
2014年9月6日 和田撮影

③園内コンクール・イベントなどの取り組み

王子動物園では、毎年動物をテーマとしたイラストコンクールや写真コンクールが催されており、上位者には各種の賞が贈られる。このことは、王子動物園が写真やイラストを趣味とする人々にとってのモデルや発表の場も提供しているということになる。1961年以来、干支の賀状版画コンクールが神戸新聞社との共催で毎年開催されているほか、動物絵画教室、アマチュア動物写真コンクール（神戸新聞社・サンテレビ共催）が毎年開催されている。アマチュア写真コンクールに向けた「動物写真講座」は、2013年時点で9回目を迎えている。

2013年9月からは、「動物ガイド」を開始し、動物の特徴や話題をわかりやすく説明するとともに、普段見ることでできない調理場や、剥製の収蔵庫を案内するなどの試みを行っている。

市民参加型動物園の表れの一つとして、市民サポーター制度のほかに、ボランティア制度を行っている。ボランティアの取り組みには園内のガイドや清掃活動などがあり、その一つ一つを考案するのはボランティア会員自身である。動物園で活動する場を動物園での取り組みに関心を持つ市民に対して提供していることも、レクリエーションの一環と言える。

④他機関との連携

来園者誘致を目的として、神戸市立須磨海浜水族園とのセット入場券が販売されている。同園に近いJRの駅ができたことがきっかけで、電車で直接来ることができるようになり、安価にすれば両方に來てもらえると考えたため、セット入場券を販売することになったという。他施設からの申し出を受け、園が了承することでセット入場券が販売されることで、以前は神戸市立六甲山牧場や、兵庫県立美術館とのセット入場券も販売されていた。また、毎夏、京都市動物園、天王寺動物園、王子動物園の3園によるスタンプラリーが行われている。

⑤広報・情報発信の充実

王子動物園では機関紙が発行され、医療機関やホテルに置かれている。ただし、それによる集客効果は未知数であり、新聞広告を打つほうが効果があるとのことである。不定期でラジオ番組に取りあげられることもあるという。

現在の王子動物園のロゴは、流通科学大学のデザインの教員に作成を依頼したもので、大学とのコラボという意味合いもあったという。

(3) 教育による地域貢献

王子動物園で行われている教育に関するイベントは、2013年ではサマースクール、動物絵画教室、夏休み動物足型教室、夏休み自由研究相談、夏休み動物切手教室、講演会「飼育係のうらばなし」、動物ク

ラフト教室が開催された。それぞれ違ったアプローチから動物に対する知識、好奇心を深めさせる催しであり、多様なニーズに対応している。

王子動物園が学校向けに行っている教育支援事業は、2014年11月現在で1種のみである。2013年には、この事業による取り組みは236回実施されており、小学校が大多数を占めるが、幼稚園や保育園も対象となる（『平成25年度王子動物園年報』より）。その内容は「動物教室ーふしぎ発見！ー」と題したもので、パワーポイントを使って、楽しい映像を見ながら子供たちに動物について説明する。また、子供たちの学年ごとにその内容は異なる（表3）。

表3 王子動物園による教育支援事業の内容

学年	内容
保育園・幼稚園	動物クイズ、えさを食べる様子、かわいい仕草など
小学校1年生	動物クイズ、動物の赤ちゃん誕生、子育ての様子など
小学校2年生	動物クイズ、飼育員や獣医師の仕事など
小学校中学年、高学年	理科と関連した内容
学校教員	研修として

出典 王子動物園ホームページより筆者作成。

なお、「動物園の人間が話しても子供向けに面白く話せない」という理由から、同園に嘱託で勤めている小学校の元校長が語り手を務めている（聞き取り調査より）。

また、近隣の保育園では、保育園側が独自に行っている王子動物園の教育的な利用方法があり（聞き取り調査より）、それについては次章で述べる。

4. 王子動物園と周辺の保育園との認識の相違

王子動物園の近隣の保育園では動物園を独自の方法で利用している。具体的な利用法としては、散歩や遠足、スケッチなどであった。そこで、詳しい利用状況を知るため、王子動物園を頻繁に利用して

いる2つの保育園に聞き取りを行った。

(1) 保育園の概観

聞き取りを行った2つの保育園には次のような特徴がある。

なかはら保育園は2006年4月1日に開園し、王子動物園まで徒歩で約5分の場所に位置していることを利用し、動物園をテーマにした保育も行っている。園児の数は、2014年8月に行った聞き取り調査の時点で142名在籍しているという。王子動物園に訪れる頻度は年間20回程度である。

青谷愛児園は、1926年に開園し、王子動物園の式典に園児を参加させることを頼まれるなど、深い関わりを持っている。園児の数は、2014年9月の聞き取り調査の時点で110～120名ほど在籍しているという。王子動物園を訪れる頻度は、年度ごとのカリキュラムによって異なるが、年間延べ200回ほど訪れているとのことである。王子動物園から、徒歩で約10分の場所に位置している。

これら2つの保育園は王子動物園の近隣に位置することから、散歩や遠足において王子動物園を頻繁に利用している。遠足などで訪れる他の施設と比較しても、その頻度はとりわけ高いという。

(2) 保育園による学習利用の実際

なかはら保育園での聞き取りによれば、子供は自然と触れ合う機会が減少し、スーパーで売られているような切り身の魚や肉が、そのまま生きていると勘違いしているような子供が実際にいるという。同保育園では、生命の実感を園児に与えるため、王子動物園への散歩や、商店街を歩いて、切り身になる前の魚やカットされる前の野菜を見せるという工夫もしているそうである。生き物そのものの姿を子供たちに見せることができる点で、王子動物園が近隣に位置することは、なかはら保育園にとって有益であると言える。

また、なかはら保育園における、独自の王子動物園の教育的利用方法として、「疑問解決学習」があり、これは動物園を観察して感じた疑問を飼育員に質問するものである。押しつけではなく主体的学習であり、本人の知的好奇心を尊重しているとのことである。

る。具体的には次のような事例があったという。

事例) ワニと金魚が一緒の水槽にいるのを見て、「なんでここに金魚がいるの?」という疑問が園児からあった。園長にもわからなかったので、次に行くときに飼育員に質問することにした。他にも、なぜフラミンゴは片足立ちなのか、なぜ色が違うのか、尻尾の大きさの違いや、ゾウはなぜ見えていない足元の石をよけながら歩くことができるのかなどといった疑問を園児が持つことがあった。猛獣の食事シーンをガラス一枚を隔てて見ることで迫力を感じることもある。行くたびにいろんな疑問が浮かんでくる。それを次に訪れた際に、飼育員等の職員に質問する習慣があるという。

後日、金魚はワニの餌だということを知って、園児たちは衝撃を受けた。しかし、それを自分たち人間に置き換えて、「自分たちも他の命を食べて生きているということに感謝しなければならない」という食物連鎖の学びによる教訓に保育士が繋げ、園児たちに教え諭した。



写真3 ワニ水槽内の金魚
2014年9月28日和田撮影

なかはら保育園では、前もって見る動物を決めておき、図鑑などで予習したのちに本物を観察しにくという「確認学習」を取り入れている。図鑑で知識を頭に入れたのち、図鑑では実感できない動物の本物の迫力を感じるとともに、知識と実物を照らし

合わせさせている。

なかはら保育園と青谷愛児園では動物の「スケッチ」を行い、これにより注意深い観察を促している。特に青谷愛児園では、「スケッチ」から発展させた「テーマスケッチ」を行っており、例えば「強い動物」、「やさしい動物」など子どもたちが決めた動物によってグループに分けてからスケッチをするなど、何らかのテーマを持って行っている。

以上のように2つの保育園では、展示動物という生きた教材を用いた、リアリティを伴った学習を行っていると言える。

(3) 保育園の王子動物園に対する意見

2つの保育園の先生に王子動物園に対する要望を尋ねたところ、以下のような回答が得られた。

なかはら保育園からの要望は、子ども用のトイレの充実や、動物にとっても、見ている側にとっても楽しい展示を心掛けること、東側扉を開通することが挙げられた。動物展示を充実させて欲しいという意見もあった。それは、クマ舎の展示がリニューアルされた際、園児の目の止まり具合も、それまでのクマ舎を通った時とは全く違っていたとのことによる。具体的に充実が要望されるものとして、ゾウ舎の展示が挙げられた。ゾウ舎の展示には、シャワー付き日よけという珍しい設備があるにもかかわらず、このような意見が出たことには注意を要する。

青谷愛児園からの要望は、動物の立場に立った配慮や、東側扉の開通であった。

以前は東側に入口の回転扉があったが、事故が起きたこともあり、現在は閉鎖されている。再度開通されれば、施設を回りやすくなるという声が2つの保育園からあった。王子動物園は、南側に位置する唯一の入口ゲートから北に向かって緩やかな上り坂になっている。2つの保育園は動物園の北側や東側に位置しており、入口ゲートから離れているため、入口から入園して坂の上の奥まで歩いて、また下の入口ゲートに戻り、保育園までの坂を上って帰るとなると、子供たちにとっては体力的に負担が大きいことになる。



写真4 リニューアルされたクマ舎
2014年9月27日和田撮影

次に、王子動物園の良い点は何かを尋ねたところ、なかはら保育園からは、アットホームな雰囲気があること、動物たちを間近に見ることができること、ジャイアントパンダがいること、入ってすぐのところにゾウがいて迫力があること、子どもと動物の国で身近に動物たちと触れ合えること、子どもたちもふれあい広場に行くことを楽しみにしていることが挙げられた。

一方、青谷愛児園からは、素朴で身近な雰囲気であること、動物との距離が近く、天王寺動物園や旭山動物園など他の動物園に比べてもそう感じられること、ふれあい広場があること、近所にあるので頻繁に訪れて見たい動物を絞り込んでゆっくり時間をかけて観察できることが挙げられた。

2つの保育園が魅力として感じている点について共通しているのは、展示動物との距離の近さと、アットホームな雰囲気といえる。

(4) 王子動物園以外に訪れる施設

なかはら保育園は、近隣の公園に頻繁に訪れ、また、神戸市立須磨海浜水族館に年1回、神戸市立青少年科学館に年1回、丸山公園に年2回訪れるとのことである。しかし、移動に電車が必要になるこれらの施設に行く機会は少なく、行くとしても年長の5歳児に限られるとのことである。

一方で、王子動物園に関しては容易に訪れることができるため、何か気になることがあれば2日連続

で行くこともあり、積極的に利用しているという回答があった。

青谷愛児園は、六甲山地の摩耶山には頻繁に訪れており、そのほかでは、市が原（神戸市中央区）、明石公園、大久保フラワーセンター（以上明石市）、万博公園（吹田市）に年1回訪れているとのことである。

このように、ほかの施設を訪れる頻度は王子動物園と比べると著しく低い。施設に到着するまでに電車を利用しなければならないといったアクセスの不便さは、保育園が施設を利用する回数を減少させる要因となっている。言い換えれば、王子動物園が保育園から近距離にあることは利用回数を増加させる要因であり、動物園が市街地に立地することによるアクセスの良さは、社会教育施設としての1つの長所であると言えよう。

5. おわりに

本稿では、王子動物園が行う取り組みと2つの保育園の王子動物園の利用状況を事例に、動物園が地域にもたらす貢献と課題の一端について検討した。その結果として、次のような点が明らかになった。周辺の保育園は、動物園までのアクセスの良さを活かして、日頃から積極的に独自の利用を行っている。ただ、それらの保育園が王子動物園を利用する中で感じる魅力や要望は、必ずしも王子動物園側が把握しているわけではないことである。また、王子動物園が行う学校向けの教育事業には、改善の余地がある。

王子動物園と保育園の間にある意見の相違点について、双方の意見を照らし合わせると、王子動物園が自覚していない強みを保育園側が感じており、逆に、それほど王子動物園の打ち出す強みを魅力と受け取っていない節がある。

聞き取り調査の結果、王子動物園のアットホームな雰囲気を魅力に感じているのは、動物園側ではなく保育園側であることがわかった。一方で、ジャイアントパンダとコアラが同時に見られるという希少性については、保育園側は特別な魅力とは思ってい

ないようである。これについて考えられるのは、近隣の保育園が日ごろ訪れる動物園が王子動物園に限られているため、その珍しさに慣れてしまっているということである。

保育園側の施設を充実させてほしいという要望について、王子動物園がゾウ舎にシャワー付きの日よけを取りつけたにもかかわらず、ゾウ舎の展示をもっと充実してほしいという意見があった。シャワー付きの日よけは王子動物園も自慢とする設備だが、保育園側からするとあまり面白みを感じないのだろうか。その理由としては、ゾウがシャワーを出そうとしてボタンを鼻で押すのは、夏季に限られるからかもしれない。また、シャワーから水が出る瞬間を見ないと、その装置もただの日よけにしか思わないのかもしれない。保育園側の要望には、工事を伴う費用のかかるものが多く、改善に至るまでには時間がかかると予想される。

東側の出口を安全なものにして開通することは、比較的容易に着手できそうだと感じた。子ども用トイレ増設の要望についてもそうだが、遠足で子供たちが団体で来園する機会が多いことから、保育園側のニーズを汲み取ることは動物園にとって必要なことではないだろうか。

動物たちを間近で見られるという魅力は、動物園側が売りにしていることであり、保育園側も同じようにそれを魅力と感じていることから、双方で合致している

王子動物園の来園者数において最も高い割合を占めるのが幼稚園児・保育園児であり、団体での無料入園者の約 52%、団体以外の無料入園者の約 60% を占める（『平成 25 年度王子動物園年報』より）。この層からの入園料は得られないが、この層の来園者数は教育施設としての価値を示す指標となる。よって、この来園者層への配慮を、施設面やサービス面において充実させるべきだと考えられる。聞き取りに対する回答にあったように、子ども用トイレを充実させ、東側扉を安全な仕組みにして開通させることについては、王子動物園にとって検討すべき課題であると言える。

次に、王子動物園の学校向け教育プログラムについては、現状の内容よりも更に充実させることは可能かもしれない。映像だけでしか動物を見せないのは、展示動物を生きた教材として扱うことができる動物園の特性を上手く活かしてないとも言える。個体ごとの生態に詳しい飼育員を解説員として一定の期間配置したり、日頃から間近に動物を観察する機会の多い飼育員だからこそ知り得るような情報を積極的に解説に盛り込むことも有効なのではないのだろうか。なお、王子動物園ホームページのスタッフブログでは、飼育員による写真を交えた解説も見られる。ただ、来園者に伝わるような形でそのような解説を示すことも、検討してもよいのではないだろうか。とはいえ、一部の展示ではそのような取り組みも見られることから、今後はそれらをさらに強調、拡大することで発展させていくべきと思われる。

前述した通り、王子動物園の来園者のうちの神戸市民の割合は、市外からの来園者よりも少ない。神戸市民のための王子動物園で有り続けるためには、神戸市民が関心を持って足を運ぶような取り組みを、神戸市民に向けてさらに発信していくべきと言えるのではないだろうか。

謝辞

聞き取り調査の際、王子動物園の職員の皆様、保育園の先生方には数々の温かいご配慮を頂きました。筆者を温かく迎え入れ、貴重なお話を聞かせていただいた皆様方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

なお、王子動物園ホームページのスタッフブログによれば、本稿で指摘した子供用トイレの増設について、筆者の卒業論文提出後に改善されていることを述べておく。

参考文献

朝日新聞 GLOBE 2014 年 7 月 20 日
No.139 「動物園、来てみる？」
王子動物園年報各年度版

大丸秀士 (1995)「動物園も今や環境教育」日本環境教育フォーラム・清里環境教育ミーティング
‘95 ポスターセッション

菊田融 (2008)「動物園の社会教育施設としての可能性」社会教育研究 26, 43-57

神戸市立王子動物園編集発行 (2001)『諏訪子と歩んだ 50 年資料編—王子動物園 50 周年記念誌—』
日本動物園水族館協会教育事業推進委員会・ブーサ
ポートネット編 (2003)『動物園・水族館での教育
を考える教育方法論研究報告書』日本動物園水族
館協会

第 14 回大阪府市統合本部会議資料 (2012)「天王寺
動物園—これまでの検討状況—」

[http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/15336/001016
38/03-10-2_shiryou-dobutsuen.pdf](http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/15336/00101638/03-10-2_shiryou-dobutsuen.pdf)

滝端真理子 (2014)「日本の動物園・水族館は博物
館ではないのか?—博物館法制定時までの議論を
中心に—」追手門学院大学心理学部紀要 8, 33-51

日本動物園水族館協会教育事業推進委員会 (2000)
『動物園・水族館における生涯学習活動を充実さ
せるための調査研究報告書』

日本動物園水族館協会教育事業推進委員会 (2001)
『新しい教育プログラム～動物園・水族館を利用
した生涯学習の展開～』

文部科学省 (2006)『平成 18 年版 文部科 学白書』

若生謙二 (1982)「近代日本における動物園の発展
過程に関する研究」造園雑誌 46(1), 1-12

神戸市立王子動物園公式ホームページ

[http://www.city.kobe.lg.jp/culture/leisure/ojizoo/e
ducation.html](http://www.city.kobe.lg.jp/culture/leisure/ojizoo/education.html) (2014 年 12 月閲覧)

日本動物園水族館協会ホームページ
<http://www.jaza.jp/about.html> (2014 年 11 月
閲覧)

NHK 2014 年 6 月 4 日放送 「クローズアップ現
代 動物園クライシス」

総合ランキング.net「動物園入場者数ランキング
2013 年度」

[http://sougouranking.net/nyujyouranking/muse
um_zoo_top.html](http://sougouranking.net/nyujyouranking/museum_zoo_top.html) (2014 年 11 月閲覧)

(わだ はやと 神戸学院大学人文学部学生、やじ
ま いわお 神戸学院大学人文学部)

1) 王子動物園には 2014 年 7 月 11 日 13 時～14 時
30 分、運営係に所属する専門員の奥野弘一郎氏と係
長の木村大氏に聞き取り調査の協力を受けた。なか
はら保育園には 2014 年 8 月 20 日 13 時 30 分～14
時 15 分に、保育士である小松氏を対象に聞き取り
を行った。青谷愛児園に対しては、2014 年 9 月 10
日 11 時 30 分～12 時 45 分に園長の松村恭子氏に聞
き取りを行った。

